日刊 動労千葉

80.9.17

No. 535

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

9.15勝利をバネに 今秋三里塚の軍事大国化阻止へ

労農連帯の旗かかげ 来春ジェット延長阻止を！

光州蜂起連帯！ 金大中氏への死刑攻撃を許すな！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

政府・空港公団による敷地内への執ようなきりくずしと、「騒特法」による周辺住民のおいだし――三里塚現地において日毎に激化する二期攻撃をはねかえす闘いとして、九・一五三里塚集会への全国からの五五〇〇名の結集による闘いの爆発は、今秋三里塚闘争勝利＝軍事大国化阻止の突破口を確実に築いた。そしてなによりも、「五六・三」ジェット燃料輸送延長阻止の闘いを動労千葉を軸に三里塚全支援勢力が包みこんで闘う陣型が形成され、勝利の展望が切り拓かれたのである。

われわれは、五五・一〇ダイヤ改悪阻止闘争と結合し今秋三里塚闘争勝利＝軍事大国化攻撃阻止を掲げ、すでに現地で熾烈な攻防戦に突入している反対同盟の決意をうけとめ、軍事大国化阻止・金大中氏死刑阻止・二期工事反対一〇・一九中央行動、一〇・二一国際反戦闘争へと総決起しよう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「東の三里塚、西の関西」軸に 全国住民運動の勝利へ

反対同盟石橋副委員長あいさつ要旨

反対同盟は、十五年の闘いの歳月の中で様々な体験をした。八〇年代こそわれわれにとって重大な時機に突入したといえる。イラン・韓国情勢がそれをさし示している。われわれは、韓国金大中氏と同じ宿命をもって、土地収用法の極刑の中で十五年間闘ってきた。しかし、三里塚闘争は単に三里塚だけの問題ではないとして全人民の支援によって闘いを押し進めている。

事業認定は昨年十二月に効力を失効しているにもかかわらず、一期運用したといって政府・公団は法を踏みにじっている。われわれはこれを許さない。動労千葉が鉄路を武器にし闘っている。三里塚は農地を武器に闘いぬく。

動労千葉の労働者と一丸となって「来年三月」へ！

農地を武器に――、鉄路を武器に――！労農連帯万歳！

政府・公団は来年三月ジェット燃料貨車輸送延長を狙っている。動労千葉の闘いは胸つき八丁厳しい弾圧の中で闘っている。ジェット燃料輸送延長阻止の闘いは三里塚を廃港に追いつめる時点に到達したのだ。厳しい闘いであるが、反対同盟は動労千葉と一丸となって闘う。

自民党鈴木体制は、憲法改悪、防衛予算の別わく化等々軍事大国化への反動攻撃をかけてきている。われわれは、三里塚は軍事空港である、と反対してきたが、現実にまさしく鮮明になってきた。三里塚空港粉砕は日本の平和を築く闘いだ。第四次空港整備五ケ年計画（『四空整』）の狙いは、二期工事強行・関西空港建設にある。関西空港反対の闘いは既成事実をつくらせないことが大切であり、建設着工前に絶対に粉砕することだ。われわれは『東の三里塚、西の関西』を軸に全国住民運動の勝利をかちとろう。

全てを三里塚へ！
全人民の勝利のために！

新幹線公害裁判判決は、裁判所、政府一体化を示すものだ。すべての問題を、三里塚に始まり、三里塚に終らせる立場で闘うならば、必ずやわれわれの目的は達成される。

いま、政府・公団は同盟内分断工作を打ち出している。そのやり方は『騒特法』をもって人を住ませない攻撃であり、敷地内に対しては、様々な懐柔策をしかけている。敷地内農民は「空港を粉砕して今こそ農民が生きるときだ」を合言葉に最後まで闘い抜く決意だ。（九・一五現地集会での挨拶より）